



コロナ禍における 子どもの人権の尊重 とは

阿南市人権教育・啓発講師団

講師 阿部 和代 さん

阿南市の花「ひまわり」の花言葉は、「光輝く」です。人権について考え守っていくことが、まさに光り輝く阿南市づくりにつながります。人権教育・啓発コーナー「ひまわり」では、人権に対する思いを掲載していきます。

「からない」「感染しないか心配」「部活で大会をめざして頑張ってきたのに、なくなってしまうとすごく落ち込んでいる」「親がコロナのことでイライラしている」「親の収入が減ってけんかばかりしている」等、子どもたちの不安な気持ちが伝わってきます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国で3月2日から臨時休校となり、その後緊急事態宣言が発令され、子どもたちの生活は大きく変化しました。おとなたちもまたさまざまな情報に右往左往し、先の見えないことに対して不安が募り、健康面や経済面で心配な日々が続いています。この状況を子どもたちはどう感じ何を考えていたのでしょうか。

18歳までの子どもがかけられる電話「チャイルドライン」には、全国の多くの子どもたちからさまざまな声が届きました。「友達と会えなくつらい」「何をやっていいのかわ

からない」「こんな状況だからしかたない」と思い、自分が今何を感じ、どう考えているのかを誰にも話せなかった子どもたちは多かったのではないのでしょうか。また話を聴いてくれる人が身近には誰もいないと感じている子どもたちも少なからずいたことでしょう。

今何が起きていて今後どうなっていくのか、なぜそうなったのか…よく分からないことが多いとき、そして理解できないとき、人は不安に

襲われます。先の見通しの立たない中で普段とは違う状況に長く置かれると、戸惑いや不安が膨らみ、心の健康にも多大な影響を与えます。子どもたちの心が不安定な状況にあるのではないか、さまざまな不安やストレスを抱えているのではないかと、おとなは想いを巡らせて欲しいと思います。そして子どもへの発達や年齢に合わせて分かりやすく状況を説明し、正しい知識・情報を伝えることを実践して欲しいです。その後子どもたちの想いを聴き、子どもが気持ちを吐き出すことができれば、不安は軽減されていきます。「子どもは黙っておとなの言うことを聞きなさい」と高圧的に従わせようとすることは本来子どもが持つ力を奪っていきます。

国連・子どもの権利委員会は、4月8日に「新型コロナウイルス感染症に関する声明」を出しました。声明は「子どもの権利委員会は、COVID-19パンデミックが子どもたちに及ぼす重大な身体的、情緒的および心理的影響について警告するとともに、各国に対し、子どもたちの権利を保護するよう求める」という文章から始まっていて、11の項目に對して対応と配慮を求めています。11番目の項目には「今回のパンデミックに関する意思決定プロセスにおいて子どもたちの意見が聴かれ、

かつ考慮される機会を提供すること。子どもたちは、現在起きていることを理解し、かつパンデミックへの対応の際に行われる決定に参加していると感じることができるときである」とあるので、現状を見てみると、学習面などにおいてのおとなの不安を解消するために、おとなの視点で物事が決められ、進められているように感じます。子どもたちが置き去りにされることのないように「おとなが子どもたちの権利を保障する」ということを意識することが大切です。

おとなができることは、子どもの力を信じ、子どもの気持ちに寄り添い、話を聴き、一緒に行動の選択肢を考えることです。そうすれば子どもは自分で考え、判断して、行動することができるようになっていきます。子どもは決して無力ではありません。子どもは力を持っています。子どもはおとなと対等な存在であり、社会を共につくっていくパートナーです。子どもはおとなと同様の権利を持っています。子どもをひとりの人間として、その主体性を尊重する。そういうおとなが増えることを願っています。

問い合わせ

人権・男女参画課

☎ 22-3094